

# 米官業の支配下

―前号より続き

こうした経過に恐れをなした菅直人は、政権の座に就くや素早く、「日米共同声明の踏襲」を宣言し、米国の歓心を買った。

鳩山から菅への政権移行、小沢幹事長の辞任に関連し、日本のメディアに最も重宝されているジャパンハンドの中心人物、マイケル・グリーンは、20日の日経新聞に「日本の

現実路線に期待感」と題した論文を発表している。その一部を以下に抜粋する。

「米政府は鳩山政権がとつた一連の行動に衝撃を受けた。

前幹事長の息のかかった影の政府が党内に存在したことである」

日本の外務、防衛官僚、マスメディア連

官僚を蚊帳の外に置くという事態だった。第2の欠陥は小沢一郎

度と180度違う好意の示し方は、「対等な日米関係」の実質的進展をあきらめた菅首相の頭をなでて、さらに対米追従姿勢を強めるよう求めているようにさえ感じる。マイケル・グリーンやリチャード・アーミテージが、史上最高の日米関係と賞賛しているのがブッシュと、

## 菅は人間として信頼に足るからか

最初のショックは鳩山氏が就任ほどなく新たな東アジア共同体構想を打ち出し、米国のアジアへの影響力に対抗する意図を示したこと。：次が、普天間基地移設問題である」

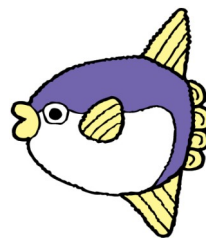
全く考えを共有する論評である。いかに日米安保マフィアの結束が固かったかという例証でもある。そして、菅直人新政権についてこう述べる。

「普天間問題は日本の民主党政権初期におけるガバナンスの重大な欠陥を2つ表面化させた。第一は、民主党の過剰な反官僚姿勢である。：官邸が政策立案の経験に乏しい評論家から過大な影響を受け、

大変ご迷惑をおかけします。  
8月13～16日(月)  
事務所はお盆休みです。

「菅首相は就任後すぐに日米同盟が日本外交の基軸であることを再確認し、普天間問題については日米共同声明を踏襲すると確約した。また、小沢氏を遠ざけ、政策調査会を復活させて。：。こうした最初の動きは、まことに心強い」

鳩山政権に対する態度と180度違う好意の示し方は、「対等な日米関係」の実質的進展をあきらめた菅首相の頭をなでて、さらに対米追従姿勢を強めるよう求めているようにさえ感じる。マイケル・グリーンやリチャード・アーミテージが、史上最高の日米関係と賞賛しているのがブッシュと、



とアルカイダのつながりは、全くのでっち上げだったことは、いまや明らかである。アーミテージ自身が、「対テロ」を旗印にチェイニーやラムズフェルドの主導した戦争に反対だったのだから、内心、どれほどブッシュ・小泉関係を評価しているかも、実際のところは疑わしい。

ひんじゅくは金を  
出してでも買え

で有名な幻冬舎社長「見城徹」のコピーです。「これほどの努力を、人は運という」この言葉は彼は好きだといっている。

彼の膨大な人脈は夜を徹した酒と議論、膨大な沈読によって築かれた。少なくとも人間は、自分が傷つくようなことを他人にしまいと思う。自分が傷ついたら相手を思いやれる訳で、その負の感情、暗黒の感情をどれだけ体験できるかにかかっているのではないか。

もはや負の感情を体験できるのは恋愛にしかない。恋愛によって初めて成長していく自分に気づく。相手にふられたり、ふつたりすることによって傷つく自分がある。他者への想像力の乏しい奴に人を動かすことはできない。「編集者という病」より

(有)西川経営オフィスサービス  
中村会計  
事務所便り  
2010年7月29日(木) NO 131  
地域から明るい未来を作ろう